

IAEA インターンシップ参加報告

派遣期間：平成 18 年 10 月 1 日～12 月 16 日

派遣者：原子核工学専攻博士後期課程 1 年 永田 章人

派遣先：国際原子力機関(IAEA)、ウィーン、オーストリア

2006 年 10 月 1 日から 12 月 16 日の 2 ヶ月半、東京工業大学 21 世紀 COE プログラムにおける COE-INES キャプテンシップ教育プログラムの一環として、国際原子力機関(IAEA) インターンシップに参加した。本インターンシップの参加理由は、多国籍の人間が集まる国際機関での実務やウィーンでの生活を通じて自分の視野を広げること、また原子力を学ぶ人間として IAEA での経験は今後の自分の研究や生活において非常に有意義になると思ったからである。

IAEA はオーストリア・ウィーンの VIC(Vienna International Centre)にあり、ここには他にも UNIDO：国連工業開発機関 / United Nations Industrial Development Organization, CTBTO：包括的核実験禁止条約機構機関 / Comprehensive Nuclear Test Ban Treaty Organization 等がある。ウィーンでは今年はモーツァルト生誕 250 周年(モーツァルト・イヤー)ということで、街自体がモーツァルト一色といった感じだった。また、500 年ぶりの暖冬ということで、通常 12 月になるとマイナス 10 度を下回るということらしいが、私が滞在した間は最低でも 0 度下回るか否かといった感じで、非常に過ごしやすかった。

インターンとして私が配属されたのは、NENP/NPTDS (Nuclear Power Technology Development Section, Division of Nuclear Power, Department of Nuclear Energy)であり、Mr. V. Kuznetsov の監督下に配置された。(写真 1)

現地で行った仕事は主に 2 つあり、1 つは CRP (Coordinated Research Project) “Small reactors without on-site refueling”の鉛、鉛ビスマス、熔融塩炉のための設計と技術開発を行っているグループ(Group.3)の活動の調整である。このグループでは、2 つのベンチマーク計算を行っている。一つは RRC KI (Russian Research Centre “Kurchatov Institute”) の RBEC-M ベンチマーク計算であり、もう一つは ITB (Bandung Institute of Technology) が提案したベンチマーク計算である。私の仕事はその 2 つのベンチマーク計算についての記載書やフォーマットの作成、そしてベンチマーク計算結果を各機関から収集し、まとめ、比較を行った。

もう一つは、10 月中旬に行われた IAEA TM (Technical Meeting) “Review of Enabling Technologies for SMRs (Small Medium size Reactor)”でのブレインストーミングで作成された質問集(questionnaire)に対する資料やデータを収集し、纏める作業だった。資料に関しては IAEA 内の図書館や報告、他機関のウェブページを利用して、資料のデータやウェブリンクの収集を行い、それらを元に各質問事項に対する表等の作成を行った。この質問集は、SMR に関係する重要項目 9 つに分類されており、各国の人口、産業、現在のエネ

ルギー生産状況，電線網，政策等の分類となっている。

インターンシップを通じて仕事や私生活で様々な経験を得ることが出来た。タスクを遂行するのに、他機関の人々とコンタクトを取る必要があった。その中で、英語での連絡の取り方や仕事の依頼の仕方等を学んだ。また、私の先生もグループ参加者の一人であり、インターンとして IAEA に行く前にベンチマーク計算をしたこともあったため、依頼を受ける側と、依頼してまとめる側の両方を経験することが出来た。

2 つ目として、10 月に行われた TM に参加できたことである。IAEA 主催のミーティングに参加するのはもちろん初めてである。その会議では、各国の政府関係者や専門家が出席し、様々な議論が行われた。そのミーティングで感じたのは、IAEA でのミーティングでは意見取りまとめが主であることである。ミーティングに限らず私が与えられた仕事でも同様である。IAEA で仕事をしている職員自身もその分野の専門家という人が多く、その専門知識をしっかりと持ちつつ、且つコミュニケーション能力や人脈等が必要であると感じた。

現地での生活については、毎日が新鮮で非常に興味深かった。建築物や文化等、当然日本とは全然違うわけで、街並みや雰囲気自体に歴史を感じ、何か時間がゆっくり流れている感じがした。また、11 月半ばにウィーンオペラ座でモーツァルトの題目“魔笛”を見た。オペラを見るのは初めてで、非常に新鮮で面白かった。なによりもウィーンフィルハーモニーの演奏が素晴らしく、これをきっかけにモーツァルトを含め色々な作曲者の音楽を聴いてみたいと思った。

IAEA にインターンシップとして行った 2 ヶ月半が非常に充実したのも周りの皆様の協力や支えがあってこそのものであった。Mr.Kuznetsov や Ms.Mercedes, 同セクションの皆様には、仕事上わからないことに対して親切に教えて頂いた。また現地日本人職員の皆様には、ウィーンでの生活に対する助言や現地の状況等、様々な情報や経験を頂いた。現地で知り合った仲間達との普段の食事やコーヒープレイク，週末のバーでのひととき等、海外での楽しい思い出や経験を得ることができた。また、このような非常にすばらしい機会を与えて下さった、齊藤先生，山野先生，COE 事務の方々を含め、全ての方にこの場を借りて感謝致したいと思います。



写真 1 右より Mr. Kuznetsov, Ms. Mercedes, 筆者